

夏休み特別企画レポート①

ソーラーカーで学ぶ環境問題

7月27日(火)、7月30日(金)の両日、それぞれせんだいメディアテーク、日専連仙台 BEEB を会場に MELON 夏休み自由研究応援企画「ソーラーカーを作っちゃおう」を開催しました。小学3年生から6年生の子どもたち32名が集まり、環境問題について学んだ後、ソーラーカーを工作しました。

地球温暖化・省エネについては学校で学んでいる子どもも多く、「知っているかな」という質問に対してすぐに答えが返ってきました。講師を務めてくださったソーラーワールドの武内賢二氏が、手回し発電機を見せると、子どもたちは興味津々に身を乗り出しました。順番に発電機を動かして電気を発電することがどんなに大変かを体験し、省エネルギーの必要性についても学びました。太陽電池についてや

電池の仕組み、パネルでどんなふうに関電気が起こるかという説明は新鮮だったようで、子どもたちが目を輝かせて耳を傾けているのが印象的でした。



夏休み特別企画レポート②

川の水を飲める水に

8月3日(火)、快晴の下、2つの対照的な浄水場を見学してきました！参加者は大学生、親子、社会人とさまざまで、みんな、写真を撮ったり質問したり、一生懸命説明を聞いていました。

『緩速ろ過方式』の大街道浄水場では、砂の層に水を通し、ゆっくり時間をかけて微生物に汚れを食べてもらいます。この日は汚れた砂の削り取り作業をしており、ろ過池の砂の表面1cmだけを、手際よくスコップで削り取っていく姿は職人芸でした。削った砂は洗って繰り返し使うこと、沈殿池の底に沈んだ泥は天日乾燥して路盤材などにリサイクルすることを聞いた子どもたちは、「無駄がないんだね！」と歓声をあげていました。



のぞきこんで水の透明度を観察する参加者

ろ過膜削りの作業中



子どもたちも熱心にメモをとっていました。

第5回 MELON 環境市民講座
「しずくちゃん」探検隊



『急速ろ過方式』の須江山浄水場では、薬品をたくさん使うことで緩速ろ過方式よりも速く大量の水をきれいにします。近年では、必要な給水量を確保するために急速ろ過方式の採用が多いということでした。

驚いたのは、どちらの処理方式でも凝集剤と塩素消毒は欠かせないということです。処理場の方が「浄水場というのはね、川の水を飲めるようにするところだよ」と、子どもたちに話していたのが印象的でした。川の水がそのまま飲めればいいのになあ、と思います。しかし、入り口では泥で濁っていた水が処理場の中を進むうちにだんだん透き通っていく様子は感動的です。生活に欠かせない水だから、これからも関心を持って過ごしたいと思います。

参加者の皆さん、説明して下さった浄水場の方々、暑い中屋外での見学お疲れさまでした！

MELON 会員 宿野部葵